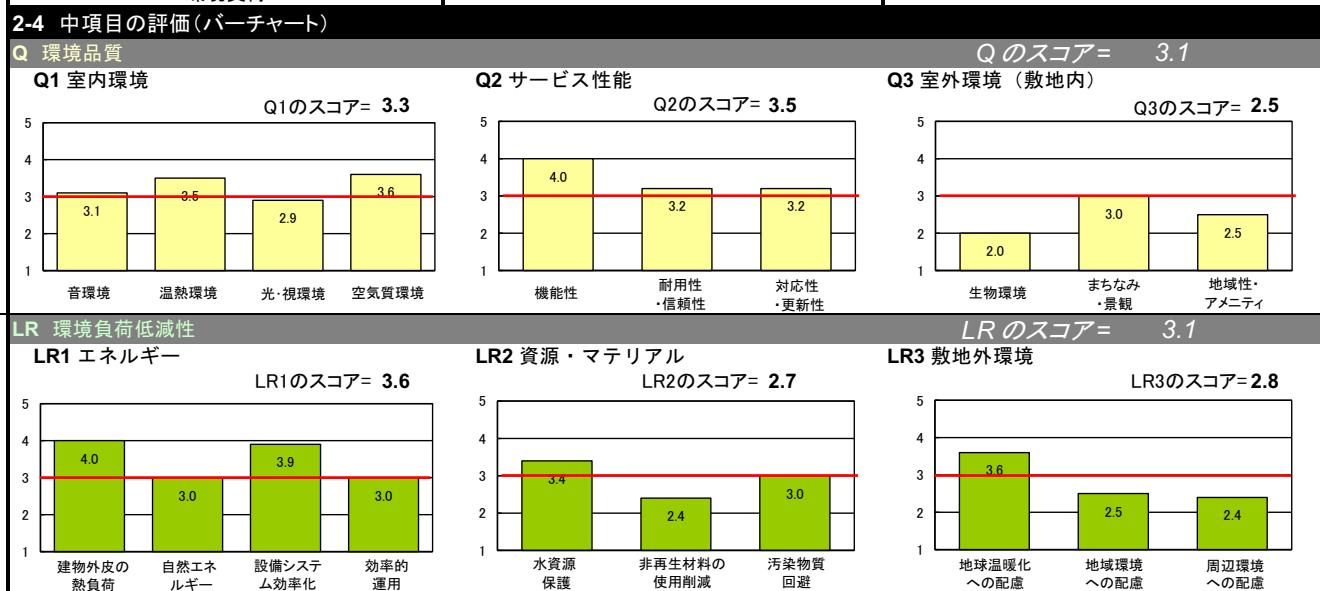
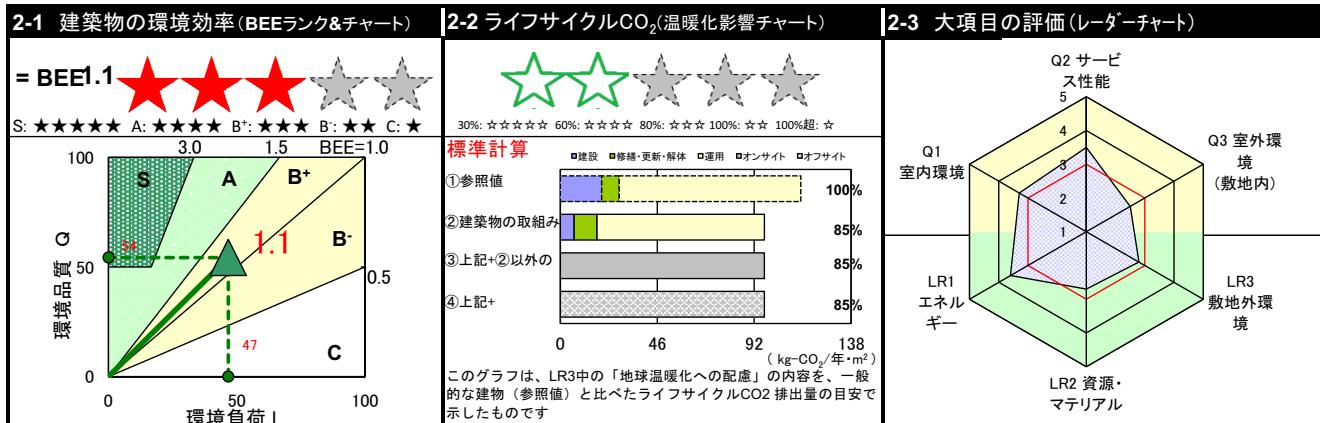


CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築効率2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)瑞穂運動場東II計画 新築工事	階数	地上6階
建設地	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通四丁目15-1他6筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年9月17日
敷地面積	1,805 m ²	作成者	
建築面積	1,022 m ²	確認日	2020年9月17日
延床面積	3,842 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他 特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
快適な住空間となるよう配慮	階高2.9m以上確保	境界際を積極的に緑化。近隣・街並みにも配慮
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建築基準法等の求める必要最低限の性能を確保します。	住戸便器に省水型衛生器具を採用	建築基準法等の求める必要最低限の性能を確保します。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)瑞穂運動場東Ⅱ計画 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			3.5
LR1 エネルギー	3.7	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生			2.3
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会			2.7
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。